

令和元年度 福祉保健部長「政策宣言」中間報告

福祉保健部長 板山 浩一

○ 令和元年度重要事業

事業名	子育て支援の推進
目標	幼児期の教育・保育サービス等の供給量の見込み及び確保の方策等を示す「第2期子ども・子育て支援事業計画」を策定します。 妊産婦が安心して育児に臨めるよう、母子保健推進員が訪問し相談支援を行う「産前・産後サポート事業」を新たに実施します。
進捗状況	「第2期子ども・子育て支援事業計画」については、子ども・子育て会議において委員の皆様から意見をいただきながら策定作業を進めています。 「産前・産後サポート事業」については、母子保健推進員の資質向上を目的に研修会を2回開催し、9月までに初産婦：124件、生後6～7か月児：275件の訪問支援を行いました。
今後の対応	令和2年3月までに「第2期子ども・子育て支援事業計画」を策定します。 「産前・産後サポート事業」については、母子保健推進員と連携を密にし、引き続き妊産婦の訪問支援を実施していきます。

事業名	健康寿命の延伸
目標	生活習慣病の発症及び重症化予防など、健康増進の総合的な推進を図る「第2次健康増進プラン」を策定し、市民の健康寿命延伸を目指します。 国民健康保険事業において、特定健診の受診率向上を図るとともに、新たにタブレット端末等を活用した保健指導を実施します。
進捗状況	「第2次健康増進プラン」については、市民アンケート調査結果や統計から実態を分析し、生涯を通じた健康づくりに向け、より効果的な対策を検討しています。 国民健康保険事業においては、5月末に対象者へ特定健診受診券を発送し、併せて電話やハガキによる受診勧奨を実施しています。
今後の対応	令和2年3月までに「第2次健康増進プラン」を策定します。 10月から特定保健指導対象者にタブレット端末等を活用し、保健指導を実施するとともに、特定健診については、11月と12月に集団健診を実施し、受診率向上を図ります。

事業名	高齢者の在宅医療・介護の連携強化
目標	高齢者が、医療や介護が必要となっても自分らしい暮らしができるよう、「終活支援ノート」を活用した出前講座を開催するほか、在宅療養の高齢者を支援する専門職がリアルタイムで情報を共有し、連携を強化するための支援システム（ICTツール）を導入します。

進捗状況	<p>高齢者が自らの終活について考える機会として「終活支援ノート」を活用した「終活講座」を9月までに28回開催し、652人の参加がありました。</p> <p>在宅療養高齢者の支援を目的とした多職種連携支援システム(ICTツール)については、9月までに業者選定と利用事業者説明会を行い、10月からシステムの提供を開始しています。</p>
今後の対応	<p>高齢者が介護が必要となっても安心して自分らしい暮らしが続けられるよう、引き続き「終活講座」を開催するとともに、ICTツールの利用を推進し、多職種間の連携を強化していきます。</p>